

## 多職種連携でその人らしい生活の実現を

公益社団法人長野県介護福祉士会  
会 長 柳澤 玉枝

新年あけましておめでとうございます。

本年も皆様にとって平穏で平和な年でありますようご祈念申し上げます。

超高齢社会を迎え、地域包括ケアシステムの構築と地域共生社会の実現が私たちの大きな目標となっています。

その実現のためには、介護人材の量と質の確保が喫緊の課題であるとして、全国的に「参入促進」「労働環境・処遇の改善」「資質向上」等の介護人材の確保に取り組んでいます。

人材不足の介護現場では、外国人の介護職員も目にするようになってきました。外国人や多様な介護人材を受け入れ「介護の質」を担保していくためには、私たち、介護福祉士が実践から学んだ知識や技術をしっかりと伝える役割があります。

長野県でも、要支援者の地域生活を支えるために、医療、保健、介護等、多様な専門職と住民が共に支え合い「支援が必要になっても安心して最期まで暮らせる」地域包括ケアシステムの仕組みづくりを目指しています。

医療も施設も地域型へと転換し、その舞台は地域での生活の場となります。

介護福祉士は、その利用者の生活の場で、一番身近に継続的に関われる生活支援の専門職です。

利用者の状況の変化を適切に伝え、その方が「住み慣れた地域でその人らしい生活の継続」が実現できるように関係職種の皆様と連携、協働し支援して参ります。

今年度は、介護福祉士養成の新たなカリキュラムが公表され 2019 年から導入されます。ますます多様化、高度化、複雑化している新たな時代のニーズに対応できる介護福祉士として、更に研修を積み重ね、知識や技術のレベルアップを図って参りますので、これからもご支援ご協力を宜しくお願い致します。

平成 31 年 1 月